

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育ルームりんごの木		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 14日		～ 2025年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	2024年 12月 16日		～ 2025年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達状態に応じた小集団での支援を行なっていること	午前と午後に小集団療育を設けて、年齢や発達段階に応じた支援を行っています。午前グループは初めて集団を経験する場として、集団の流れに見通しを持って参加したり、進行役や教材に注目しながら一緒に楽しく参加できるように支援します。午後グループは集団の中でルールや手順を理解して取り組んだりお友だちと楽しく関わる経験を積める場となるよう支援します。	・さらに充実を図るために、子ども一人一人の発達や行動をアセスメントする力を高めるケース検討や研修を実施していきます。 ・子どもの発達ニーズに応じた活動内容を提供していきます。
2	早期からの受け入れ体制があること	1歳半健診で発達の心配をされ、当事業所を利用される方が多いです。保育士、公認心理師、言語聴覚士、臨床発達心理士、社会福祉士などが直接支援を行い、保護者の方を支えています。	・引き続き多職種で連携をとりながら情報共有を行い、チームでの支援に取り組みます。 ・職員の専門性をさらに高めるため、発達支援方法やアプローチを学べる外部研修への参加を促進させます。内部研修ではケーススタディを取り入れ、具体的な支援方法について職員間で意見交換を行い、実践力を高めま
3	事業所内の情報共有、関係機関との連携体制があること	当事業所はグループ療育を行っていますが、法人内に個別療育を行う療育ルームりんごの木北園教室があるため、連携をとることで個々の発達状況を捉えたり、集団の様子を個別療育の事業所に相互に伝え合うことができます。また、相談支援事業所を通じて、切れ目のない移行支援や地域支援が可能となり、包括的支援を図っています。	・引き続き法人内外の関係機関との定期的な連携会議を実施し、子どもの支援状況や課題について情報を交換します。 ・移行先の園との連携も充実させます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が不足していること	「保育所や幼稚園等との交流や地域の子どもと活動する機会」を活動として提供できていません。早期療育のため、療育を経験したほとんどの方が保育所や幼稚園に通園されています。併行通園に向けての療育という位置付けとなっています。	保護者の方の要望などを伺いながら、必要とされている交流の方法などを検討していきます。
2	保護者同士の交流機会の少なさ	交流の機会を求める声と、現状で満足との意見が分かれるため、ニーズに応じた柔軟な対応が求められています。保護者会の頻度が年2回ありますが、参観も兼ねているため、交流の時間が少なくなっているのが要因と考えます。	参観なしの交流会のみの保護者会を開催するなど改善の工夫が必要です。保護者の皆さんのニーズに応じた開催方法を検討していきます。